

会報神奈川

平成30年10月15日発行

発行責任者 神奈川県神道青年会会長 小澤篤至

〒232-0006 横浜市内南区南太田2-7-29 電話 (045)731-0668

— 奉祝 天皇陛下御即位三十年 —



神奈川県神道青年会

会長 小澤 篤至

先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。神宮におかれましても、諸祭意なく斎行されておられますこと慶賀に存じます。畏くも今上陛下におかせられましたは、御即位三十年の佳節をお迎えになられました。常に、国民と共に歩まれ、国安かれ民安かれと全身全霊の祈りを御捧げになられる陛下の大御心に感謝の真心を捧げ、平成の大御代を国民挙って御祝い申し上げます。

さて、今年度当会は、天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業を推進致しております。本記念事業の皮切りとして、六月十九日から二十二日迄の四日間には皇居勤労奉仕を実施し、恙なく修める事が叶いました。期間中、畏くも天皇皇后両陛下、皇太子殿下の御会釈を賜り、この度の皇居勤労奉仕に伴う御言葉の賜りました。光栄にも天皇皇后両陛下の御会釈に際し、全奉仕団の代表として万歳三唱の先導を務めさせて戴きました事は、慶幸の至りであり、一生忘れることの出来ない感動と貴重な経験をさせて戴きました。

また、九月十日には、特別記念講演として、宮内庁掌典長 楠本祐一先生より「天皇の祈りとは何か」皇室祭祀の現状とその意義」との演題にて御講演賜りました。今上陛下の祭祀への想い、そして平和への願いにふれ、畏くも陛下に倣い「祈り」を捧

げる神職として、より一層身の引き締まる思いと共に、今後、広い視野のもと斯界が果たすべき新たな役割を、次代を担う神職としての気概を以て模索実践すべく誓いを新たに致しました。明年二月には平成の御代三十年の軌跡を辿る写真パネル展を開催予定でございます。今後も本記念事業の恙無き完遂に向け会員一丸となって邁進して参る所存でございます。

明年は愈々御譲位による御代替わりの御大礼が執り行われます。また、憲法改正の機運高まる今日、斯界にとりましても重要な節目の年になる事と存じます。過去より学び今に活かすべき事柄を確認し、青年神職として為すべき事を存分に協議共有して、時宜に適う活動に努めて参る所存でございますので、尚一層の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。



天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業 皇居勤労奉仕
平成30年 6月19日～22日



神奈川県神道青年会



<http://www.k-jinja.jp/seinenkai/>

天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業

皇居勤労奉仕

総務局 局長 川辺浩司

天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業の一環として、会員・賛助会員計二十三名の参加のもと、六月十九日～二十二日にかけて皇居勤労奉仕を行いました。

皇居勤労奉仕は、昭和二十年に空襲で焼失した宮殿の焼け跡を整理するため、同年に宮城県内の有志が勤労奉仕を申し出たことから始まり、それ以降全国から参加される奉仕団により今まで続けられています。当会では平成十二年に創立五十周年記念事業として皇居勤労奉仕を実施しており、今回二回目の奉仕となりました。

この度の奉仕では、赤坂御用地が当会の初日の奉仕場所とされ、午前には東宮御所前において皇太子殿下の御会釈を賜りました。

二日目は皇居において清掃奉仕が行われ、午後には天皇皇后両陛下の御会釈において、小澤会長が当会を代表し、天皇皇后両陛下より皇居勤労奉仕に伴う御言葉を賜りました。

二日目以降は皇居での清掃奉仕となりましたが、奉仕中には宮内庁職員の方から赤坂御用地や皇居内の施設な

ど、一般参観では立ち入ることができない場所までご案内とご説明を頂き、宮中祭祀や諸行事などについてより身近に学ぶ機会となりました。

期間中は天候も心配されましたが大きな崩れもなく、そして奉仕団の怪我などもなく無事に奉仕が叶いました。

また、天皇皇后両陛下の御会釈の際には、小澤会長が同期間に参加した全奉仕団の万歳三唱の先導をつとめ、大変意義深い奉祝記念事業となりました。今後も予定されている奉祝記念事業の完遂に向け、会員が一致団結し取り組んで参りたいと思います。

「皇居勤労奉仕に参加して」

賛助会員 三嶋神社

榎宜 加藤 恵子

今回、神道青年会のご尽力のもと初めて皇居勤労奉仕に参加させていただきました機会を得ました。

日頃から青年会様の開催行事を拝見してはいたもののなかなか参加が叶わず、また今回賛助会員として初の参加であったため、始めは緊張がありましたが、小澤会長、平岡副会長始め会員の皆様が温かく迎え入れて下さったおかげで、最後まで充実したご奉仕をすることができました。心より御礼申し上げます。

また皇居内でのご奉仕を通じて天皇皇后両陛下のご日常に触れ、国民そして世界平和のために祈りを奉げられる御姿を拝見することができましたことは何よりの喜びでした。

貴重な体験をさせていただき、心より感謝申し上げます。今後ともこのような機会を通じて青年会の皆様と交流できますことを切に願っております。

「皇居勤労奉仕に参加して」

賛助会員 浅間神社

宮司 松本小寿恵

初めて訪れた皇居は大変広く、風光明媚なところでした。特にこの時期は庭園の手入れは大変なこと、少しでもお役に立てたなら幸いです。

また神道青年会として参加したおかげで大変貴重なご奉仕をいたしました。一番印象に残ったのはご会釈です。天皇陛下のお言葉に続き、皇后陛下が「暑中ありがとうございます」とお声かけくださいました。そのお声の優しい響きを忘れることはありません。青年会にとって二十年振りの勤労奉仕とのことですが、今後も多くの神職が参加できたらよいと思います。

私が神職になった年齢は遅く、青年会との活動は今回が始めてで緊張しましたが、明るく朗らかな雰囲気や心地よく、大変楽しい思い出となりました。このご奉仕に送り出してくれた家族を始め宮守の方、職場の方のご理解ご協力に深く感謝し、皆様のご健勝と青年会のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。



天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業

掌典長御講演

広報部 副部長 佐野若菜



神奈川県神道青年会では天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業として、宮内庁掌典職掌典長の楠本裕一先生をお招きし、特別講演「天皇の祈りとは何か―皇室祭祀の現状とその意義―」と題し、ご講演を頂きました。

本年は平成の御代三十年目の佳節、明年には今を生きる誰もが経験したこ

との無い、今上陛下の御譲位、皇太子殿下の御即位という御代替わりを迎えます。今後、各地で開催される様々な奉祝行事が、国民挙つての奉祝となるように、我が国の転換期に青年神職として何をすべきかを考える必要があります。この佳節を皇室敬慕の気運を高める好機と捉え、今後の青年会活動に役立つ知識を得るために、皇室祭祀を中心にお話を伺いました。

皇室祭祀の歴史は太古・明治期・戦後と大きく分けることができ、その時代背景や時の権力により制度的なものなどの変遷はあるものの、一つの王朝が一度も変わる事無く現在まで皇統を繋いでいるのは世界で唯一日本だけであります。諸外国の王朝は政治・権力・財力などを権威とし国家を統治しているの、何が欠けると革命が起り政権が全て交代しますが、日本では時の権力者が誰であれ、天皇陛下は「君臨すれども統治せず」という原則を、遙か昔の太古よりごく自然に体現され、皇統を紡いで来られています。

そして常に国家の安寧を祈る皇室祭祀の最高責任者として、また、「この日本を豊葦原瑞穂国として修めよ」との神勅を下された、天照大御神の子孫



としての二つの御立場で、今日まで代々途切れる事無く伝えられてきた天皇陛下の祈りにこそ、皇室祭祀の本質があると思われました。

本講演の中で、「集団の中の個人の自立や自覚が日本の新しい国造りに必要である」との言葉がありました。日本は島国であり古代より稲作により国を興しているため、人と人との和を重んじる国民性が強くなりました。神社は、祭りを通して地域の人々の結びつ

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製

天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ

御一報次第カATALOG御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

内宮に一番近い宿

早朝参拝のご案内をしております

ゆとりとやすらぎの宿

神宮会館

伊勢神宮崇敬会

— ご宿泊に関するお問い合わせ —

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL.0596-22-0001/FAX.0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>



きの核となる場です。そのような神社に奉仕する神職の存在意義は「大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること」と「敬神生活の綱領」に示されており、私も青年神職の活動方針にも「皇室の尊厳護持」を掲げることが多々ありますが、むしろ国民こそが天皇陛下下の祈りの中で守られていると言ってもいいでしょう。

神々への神明奉仕を通し地域共同体



の要となる使命を持つ青年神職であるなら、少しでも天皇陛下下の大御心に応えなるべく活動に邁進しなくてはなりません。そして、明年の天皇陛下御即位三十年と御代替わりの奉祝行事に積極的に参加し、多くの人々に皇室の有り難さを広めていきたいと思えます。

命を再認識致しました。

本講演を受け、これからの我が国の

転換期に向けて、青年神職としての道

筋に光りを当てて頂く機会を得たこと

に感謝し、一層の美しい国造りへの使



繊細な技術と日本の伝統を今に継ぐ
授與品の奉製

古都 奈良の

株式会社 大和奉神堂

〒630-8434 奈良市山町782番地

TEL 0742-62-3235(代)

FAX 0742-62-3228

E-mail: hoshindo782@yahoo.co.jp

HomePage: <http://www.yamato-hoshindo.com/>

民俗工芸オリジナル

御清め箱(おみくじ用)

材質 桐材

寸法 間口30×奥行30×高さ76cm

7,800円



株式会社
民俗工芸

TEL 0120-534-550
FAX 0120-872-550

〒657-1162 長崎県佐世保市御本町15-1
土曜日も平常通り営業致しております。



新製品

引出し付

シリーズ 言霊

常若



「常若に」

神奈川県神道青年会 第十九代会長

伊勢原大神宮 宮司 宮本 佳昭

神青会は、会員が挙って参画し意見を闘わせ、汗をかい実践する場であり、懇親の輪を広げ、信頼できる仲間づくりをするための組織です。私を成長させてくれた神青会での日々は、たいへん貴重な時期でした。特に第十九代会長としての二年間、月一回の拡大役員会、各部会の事業、更に神青協の諸活動と枚挙に暇が無いほど無我夢中で活動した事を思い出します。幾多の記憶の中で、フットサル同好会を発足できた事は格別でした。当時日韓ワールドカップの影響か、体力増進目的か、サッカーに興味がある会員が集いフットサル同好会を始動させました。ルールも技術も儘ならない集まりが、今では強豪チームとして活躍されていることは本当に喜ばしいことです。また、昨今ゴルフ同好会がティーオフ、既存の野球同好会を含め、スポーツを通して会員増強に繋げる活動も盛んになっていることは頼もしい限りです。今後も神青会の多岐に亘る事業の展開を期待しています。

さて、今私が大事にしている言葉は「常若」です。去る平成二十五年十月二日第六十二回式年遷宮の皇大神宮遷御を特別奉拝する好機を頂きました。その夜、遷御に先立ち「カケコー」鶏鳴三声が唱えられ、愈々大神様が出御される折、静寂な神域に神様を感じることができました。「神風の」は伊勢の枕詞です。その神風が確かに吹きました。重低音で響く地鳴りのような風が参道と上空を駆け抜けたのです。体中に閃光が駆け抜けるような気を感じました。神宮におわします神様なのか。その風が吹くまでは、無風ではないが、風を意識することはありませんでした。たいへん貴重な体験をさせて頂きました。千三百年にわたり繰り返されてきた式年遷宮によって神宮は、常に若々しい姿を保ち続けています。古い形体を維持しながら、新しく造り替えられていく遷宮は正に奇跡です。その式年遷宮を象徴する言葉が「常若」です。以来、私にとって大切な言葉となっています。

古と今と未来をつなぐ、衰えることなく常若に、神奈川県神道青年会が、日々若々しい心をもって活動していただければ、望外の喜びです。

御装束・御社殿装飾調度・祭器具
家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株) 高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込 3-2-9

TEL 03(5815)8771

FAX 03(5815)8772



- 〈営業品目〉 ●交通安全御守護
●開運招福鈴
●文鎮 金盃
●各種記念品類
●胸像・レリーフ・鑄造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp



五月七日に御神田奉耕者である長嶋伸博様のご自宅にてイセヒカリ、古代

種まき

企画部 副部長 岩地太郎

米、キヌヒカリの三種類の種を蒔きました。まず、新聞紙を敷いた長方形のトレイに土を平らに敷きつめ、続いてロー



御神田だより



私はこの度の種まきで初めて企画部の活動に参加させて頂きました。種まきは地道で大変な作業ではありましたが、トレイ一杯に散りばめられた黄金色に輝く種は大変美しく神秘的な感じがいたしました。



ラーを用いながら土が見えなくなるまで、全体にまんべんなく種を蒔いていきます。そして、トレイの上からホースで水



を与え、約一ヶ月後のお田植えまで成長を待ちます。
五月二十一日に御神田にて、会員六名でクロツケ作業を行いました。クロツケ（畔つけ）とは、水を張った田んぼの土手が崩れたり草が生えたりしないよう、畦の側面を泥で補強することとで、「畔塗り」とも言います。畔つけ機という便利な機械もあるようですが、昔ながらの方法で鍬を使って土を塗りつけていきました。水を張っていない田んぼには、もぐらやねずみが開けた穴があり、張った水が漏れないよう丁寧に埋めました。慣れない泥と格闘しながらも御田植祭に向け、作業に打ち

クロツケ

企画部 副部長 新里智紀

“土佐絵自由自在”「既製サイズで我慢・・・」の時代は終わりました。
土佐絵で作る神具木工品は

森の道具屋

〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川177-3
TEL 088-850-4087 FAX 088-850-4076
URL <http://www.morinodouguya.ecweb.jp>
E-mail morinodouguya@titan.ocn.ne.jp

大切なイメージを
カタチにします。
オリジナルグッズ・記念品

KOWA

KOWA DISPLAY CO.,INC.

株式会社 晃和ディスプレイ

東京都目黒区目黒本町3-13-10 〒152-0002
TEL: 03-3792-0211 FAX: 03-3792-0925
ホームページ <http://www.kowa-dsp.co.jp/>



込みました。私自身は二回目となる畔つけ作業でしたが、昨年より畝の扱いにも慣れ、泥の感触なども楽しめるようになってきました。



六月三日に御神田において御田植祭を執り行いました。本年も農家の方々をはじめ諸先輩方のご協力も賜り、例年通り盛大に執り行うことができました。昨今は「イセヒカリ」の同種交配が難しく、収穫量の落ち込みや、病気にに対する耐性も弱くなってくる等の懸念があったため、本年は新たに神宮より「イセヒカリ」の初種を賜りました。当日は青空が広がり、御田植えに参加した子供達も普段はなかなか体験できない土や水の感触に興奮し「もっと植えたい！」や「カエルや虫を獲りたい」などの声をあげながら、泥まみれで苗を植えていました。子供達には稲作を通して神道祭祀に接して頂くと共に、稲作の大切さ、農家の方々のご苦労を感じ、私達が日々忘れがちな感謝の心を育んで頂ければ幸いです。また、今年も参加者全員で力を合わせて植えた新たな「イセヒカリ」が力強

御田植祭

企画部 副部長 平井泰行



くこの地に根付いていく事を切に願っております。

神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本社 〒516-8611 三重県伊勢市岩淵2丁目5番29号(私書箱第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東京本営業所) 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
http://www.kamijisya.co.jp

誠実奉仕、信用第一

神社本庁 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店

瀬戸装束店

〔営業品目〕
●神職御装束 ●神楽装束 ●神社調度
●祭器具のすべて ●神前結婚式場神殿設備

東京都中野区中野3丁目10番5号 取引銀行 三菱UFJ銀行中野駅前支店
〒164-0001 電話 03-3381-4927 普通預金No.0359145
FAX 03-3381-4927 郵便振替口座 00120-7-557201

活動報告

福島県神道青年会との
交流事業

親睦部 部長 松尾寛一

四月二日、箱根の地に於いて福島県神道青年会との合同親睦会を開催致しました。

「神職子弟の交流」を主眼に置き、今年度は福島県の皆さんを「神奈川県が誇る観光地」箱根へとお招き致しました。

当日は箱根神社に参拝した後、芦ノ湖を航る海賊船に乗船。ロープウェイ



を乗継ぎ大涌谷へと向かいました。大涌谷散策の頃には子供達はすっかり打



ち解けており、その適応力に驚かされました。大涌谷から再びロープウェイ、ケーブルカー、箱根登山鉄道と乗継ぎ、宿舎となる湯本富士屋ホテルへ。温泉に浸かり旅の疲れを取った後、懇親会を開きました。

二日間を通して子供達の眩しい笑顔と、仲良く遊ぶ光景を温かく見守る両親の姿がとても印象に残る、意義深い合同親睦会となりました。

この福島県神道青年会との交流事業は、先輩諸兄の御縁により三十年ほど前から不定期に行われていた事業であり、佐野会長期に「震災以降、東北の方々へ様々な形の復興支援が行われている中、子供達へ向けた何かをしたい」と親睦スキー事業を再開以来、古木会長、小澤会長と三期に渡り、恒例事業として続けております。今後も斯界の将来を担う子供達のより強い絆を結ぶ機会を繋げて参りたいと考えております。

定例総会

事務局 局員 小泉匡史

五月二十九日、伊勢山皇大神宮に於いて平成三十年度定例総会が四十六名の会員参加のもと開催されました。

正式参拝の後、参集殿にて開会となり小澤会長の挨拶では「一人一人が自

創業百有余年

— 伝統の技術を活かした授与品作り —

神奈川県神社庁をはじめ
全国各神社でご利用頂いております。

神符・守札・木札・金欄御守・御朱印帳
交通安全守・彫り木守・その他各種授与品



ご一報いただければカタログ送付致します

株式会社 **丸井紙店** TEL 055-272-0136
FAX 055-272-3966

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

御装束・御簾・神輿
神祭具調度

宮内庁御用達 京装束・京神具の店

有限会社 竹 重

〒600-8324 京都府京都市下京区東側町510番地

Tel 075-371-0394(代)

Fax 075-341-6966

ご注文専用フリーダイヤル 0120-37-0394



覚と気概をもって行動することの大切さ」、「天皇陛下御即位三十年の節目の年に我々青年会員の活動の道しるべを示す大切な時」という会員の意識を再確認する言葉がありました。

また、伊勢山皇大神宮の池田宮司様には、社務ご多忙の中、ご臨席いただきご挨拶を頂戴致しました。

議事へと進み、議長に川辺総務局長が選任され、平成二十九年度活動報告、各種決算・監査報告が行われ、平成三十年度の活動計画案、予算案、天皇陛下御即位三十年奉祝記念事業特別会計予算案など承認され、会議中は会員による質疑などが活発になされ議事

が収められました。次に、神青協報告・入退会者の報告紹介が行われ、「美はしき山河」合唱の後、古木相談役の聖寿万歳にて皇室の弥栄をご祈念申し上げ、定例総会が滞りなく閉会となりました。

閉会の後、横浜桜木町ワシントンホテルに於いて懇親会が行われ、石川正人先輩、小泉倫孝先輩にもご参加いただき熱く青年会への想いが語られ有意義な時間となりました。

会員家族親睦キャンプ

副会長 山本喜道

八月二十一日から二十二日の一泊二日の日程で相模湖の日相園のコテージで「会員家族親睦キャンプ」を、親睦部主催で会員家族十八名(大人十一名、子供七名)の参加をいただき開催致しました。

会場は相模湖を望む二階建ての広々としたコテージで、ベランダでバーベキューをして美味しい食事を楽しみながら子供達は部屋中を駆けまわり、様々なゲームをして、時に泣いたり、お兄さんお姉さんが小さい子の面倒を見たりと、どんどん仲良くなり絆を深めておりました。

子供達のパワーに終始圧倒されましたが、年々すくすくと育っていく子供



達の成長を見て今後がますます楽しみになりました。

今回は親睦部の松尾部長をはじめ副部長の皆さんが会員同志の親睦だけではなく、会員の家族の懇親の機会を企画していただいたお陰で神職子弟の交流が盛んになりました。今後もこういった子供達の記憶に残る事業を継続し、次世代に繋いでいければと考えております。



祈りをかたちに

授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義實

〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1

TEL 048-921-1221 (代表) FAX 048-921-1515

この国の佳き伝統とともに

株式会社 宮本卯之助商店

創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売

〒111-0035 東京都台東区西浅草2-1-1

tel. 03-3844-2141 fax. 03-3842-6730

www.miyamoto-unosuke.co.jp

社頭で使える英語研修

教養部 副部長 新井 賢

九月二十一日、伊勢山皇大神宮記念館を会場として教養研修会「社頭で使える英語研修」を開催し、小澤会長を含め二十七名の参加があり、会員はもとより県内宮司様や諸先輩方にも出席いただきました。

講師のクリストファー・クーリング氏は、神社本庁海外研修や本の監修、また旅行代理店での経験を活かし、第六十二回神宮式年遷宮では海外メディアや研究者の対応を任されるなど、幅広く活躍されている方です。

正式参拝の後、研修が始まりました。研修では、事前アンケートを基に作成



されたワークシートをふまえて、手水の仕方や参拝作法、境内の建物についてなど、日本語あるいは神道独特の表現も外国の方が理解出来る英語表現にして教えて頂きました。研修の結びには「間違えても良い、積極的に伝えたいことを伝えて欲しい」と話されました。

東京五輪を目前に、我々神職は今後さらに増加する外国人参拝者に、作法や文化を伝える役割があり、今回の研修がその大切な一步になりました。



横浜刑務所大祓式並に施設収容者健康祈願祭

渉外部 副部長 長崎佳範

六月二十一日、神奈川県神社庁教誨師の皆様により「横浜刑務所大祓式並に施設収容者健康祈願祭」が肅行されました。この祭典は、宗教教誨の充実と神道教化の実践に寄与するものとして、横浜刑務所にて毎年執り行われています。

神社庁教誨師の春日神社今村照美欄宜、杉山神社寶積尚照宮司、皇太神宮松橋孝行宮司と、当会会員四名、舞人二名にて、施設関係者及び収容者参列



◆ 授与品全般・神具 ◆



創業安政貳年

株式会社秋江

御守袋・錦守・木札・紙札・絵馬・土鈴
朱印帳・根付・神具・御装束・記念品

〒602-0056

京都市上京区堀川通上立売下ル北舟橋町835

TEL 075(432)2255(代) FAX 075(441)8011

<http://www.akie-net.com>

代表取締役

可児 錠二



トモ工陶業株式会社
株式会社可児商店

愛知県瀬戸市北浦町三丁目36番地 〒489-0915

☎0561-83-3674(代) ☎fax.0561-82-4261

E-mail:kani-co@mtf.biglobe.ne.jp

<http://www.tomoetogyo.jp>

のもと、先ず大祓式を行い、次に健康祈願祭、祭典が厳粛に執り修められました。

その後、松橋宮司により収容者に対して講話が行われました。講話ではサノオノミコトの神話を例に挙げ、過ちを犯してしまっても心を改めて日々の務めを続けていけば、立ち直る事ができると説いていらつしやいました。

刑務所という特殊な環境での奉仕は、神職として学びの多い経験であり、教誨師の皆様にも頂いた貴重な機会を有り難く感じました。

神道青年全国協議会 第七十回定例総会

会計局 局長 志村幸弥

四月二十六日、神社本庁大講堂に於いて「神道青年全国協議会第七十回定例総会」が行われました。当会から佐野監事、小澤会長を始め十二名で出席致しました。

開会式冒頭で佐野神青協会長による挨拶の後、ご来賓の吉川通泰神社本庁副総長よりご祝辞が述べられました。定例表彰式では、最優秀事業賞に埼玉県神道青年会の「埼玉県忠魂碑等調査」、最優秀広報賞に石川県神道青年会の広報誌「太鼓のひびき」が選ばれ表彰されました。



総会では、各議案が審議され、二十九年度の会務報告、決算に関する説明、監査報告が行われ、いずれも承認されました。続いて三十年度の事業活動案、予算案が審議、承認された後に、平成三十一年に迎える神青協創立七十周年の佳節に向けての実行委員会の設置、記念事業展開の旨が報告されました。

定例総会後には、神青協渉外委員会による祈願碑研修会が開催され、先達が建立された祈願碑の経緯と碑に込められた想いを再認識致しました。

その後、場所を明治記念館に移して、菊波の友垣会が開催されました。神青協顧問、OBの先輩方や全国の単位会

の方々など多くのご出席のもと、お互いの現況や、今後の事業の話などがなされ、和やかに懇親を深めることが出来ました。

神青協一都七県協議会総会

広報部 副部長 神谷直樹

六月十八日、浅草ビューホテルに於いて東京都神道青年会が主管となり、第二十四回「神青協一都七県協議会総会」が行われました。当会からは小澤会長、佐野監事、他九名の会員が出席を致しました。

開会にあたり、東京都神社庁副庁長の熊野神社小泉朋昭宮司様を始めとするご来賓の皆様方よりご祝辞ご挨拶を賜り、議事においては、平成二十九年事業報告、収支決算報告、平成三十年度事業計画案、収支予算案が承認されました。その後、各単位会より活動報告が行われました。

また、この度神青協一都七県協議会顧問を務めておられた比々多神社禰宜永井武義様も本総会をもちましてご退任となりました。様々な場面でご活躍されておられる先輩方に恥じぬよう今後も青年会の活動に取り組んでいきたいと強く感じました。

総会後は、須藤元氣先生をお迎えし、「自分が変われば世界が変わる」東京

オリンピックに向けて」をテーマにご講演頂きました。アスリートとしての現役時代から現在にいたるまで、先生のようなお立場における生き方をお話頂き、「やりたいこと」に対する熱い想いが聴いている私達に伝わってくるご講演でした。

講演終了後の懇親会においては、都県の枠を越え、より一層絆が深まったことを感じると共に神青協一都七県協議会の更なる発展・繁栄に努めていきたいと感じました。



北方領土早期復帰祈願祭

副会長 山本喜道

五月二十三日から二十四日に、神道青年全国協議会の創立七十周年記念事

業「北方領土早期復帰祈願祭」及び北方領土出前講座語り部講演会に当会より小澤会長、守屋副会長、小泉事務局員、佐野監事、私の五名で参加して参りました。

まず、戦後の混乱の中、北方領土に鎮座されていた十一社の御神体を島民の方々が身を挺して奉遷され、お祀りされている北海道根室市鎮座の根室金刀比羅神社に正式参拝させて頂きました。その後、根室商工会議所へ移動して地元の高校生二名と元島民の方のご講演を拝聴し、経験談や返還へ向けての活動について伺うことができました。

翌日には、同じく根室市鎮座の納沙布金刀比羅神社の境内にある「北方領



土の碑」に於いて北方領土早期復帰祈願祭が斎行され、早期復帰への祈りを全国の青年神職と共に捧げました。

今度の記念事業参加させて頂き、北方四島の領土問題や島民の方々の無念さを知り、そして地元の高校生達の頼もしい活動から多くを学ばせていただきました。早期復帰に向かって少しでも自分ができる活動をし、啓発に努めて参ります。

神道青年全国協議会 夏期セミナー

会計局 局長 志村幸弥

八月二十九日から三十日に、「神道青年全国協議会夏期セミナー」が神社本庁大講堂において開催され、当会より小澤会長を始め七名の会員が参加致しました。「転換期にたつ我ら」世論を喚起するために」と題し小國神社宮司・神道政治連盟会長 打田文博先生、神道政治連盟主席政策委員 田尾憲男先生、國學院大學名誉教授 大原康男先生、日本政策研究センター代表 伊藤哲夫先生の四名の講師をお迎えしてご講義を頂きました。

それぞれの講義では、来年五月に迎える御代替わりに伴う諸儀式、皇室典範の在り方についての説明、また日本の国体・国柄の特色について示されま

した。憲法改正に関わる諸問題については、我々神職も「権利・義務を持った自然人として、国を思い、国を愛う普通の人間であること」を示され、また「我が国の未来を良い方向へと導けるような憲法改正国民運動への積極的な参画、推進」を呼び掛けられました。

御代替わりや憲法改正といった大きな時代の転換期にある我が国の未来を思い、青年神職として時局問題に取り組むための自覚を高め、教養を深める契機となる研修でした。「真剣に考え、真剣に祈る者は、必ず言動に出る」という講師の先生の言葉を胸に、これらの時局問題へ取り組んで参ります。



神社建築設計監理専門

御境内の整備計画
御建物の新築、修理
御予算の査定指導
神社建築の本流をつく
当所を御利用下さい

一級建築士事務所

株式会社 竹澤 建築設計事務所

所長 竹澤 大一

〒174-0071

東京都板橋区常盤台二二二
TEL (03) 5339-1354
FAX (03) 5339-1352

電話相談は無料です。お気軽に御利用下さい。

HP www.tkwz.org e-mail info@tkwz.org

宮内庁 神社本庁・神奈川県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場



株式会社

大槻 装束店

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

http://www.otsuki-shozokuten.com
E-mail: info@otsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分／有楽線・末広町駅徒歩6分

電話：03-3835-3201 FAX：03-3835-0617



平 成 30 年 度 前 期 活 動 報 告

4月

- 19日 第1回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）
 26日 神青協第70回定例総会並びに菊波の
 友垣会（神社本庁・明治記念会）
 27日 神政連東京都・神奈川県本部合同靖國
 神社研修会（靖國神社・参議院議員会館）

5月

- 7日 青少年育成事業「稲作体験」種まき
 （神奈川県神道青年会御神田）
 18日 第2回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）
 21日 青少年育成事業「稲作体験」クロツケ
 （神奈川県神道青年会御神田）
 23～24日 神青協創立70周年記念事業北方領土
 早期復帰祈願祭（納沙布金刀比羅神社
 内北方領土の碑）
 26日 神青協神宮古殿地清掃奉仕（内宮）
 29日 平成30年度定例総会
 （伊勢山皇大神宮）

6月

- 2日 青少年育成事業「稲作体験」御田植祭
 （神奈川県神道青年会御神田）
 2日 神奈川県神輿保存会道場祭
 （神奈川県神輿保存会道場）
 7日 神青協神宮啓発委員会
 （神奈川県神社庁他）

- 18日 第24回神青協一都七県協議会総会
 （浅草ビューホテル）
 19～22日 天皇陛下御即位30年奉祝記念事業
 「皇居勤労奉仕」（皇居・赤坂御用地）
 21～22日 横浜刑務所大祓式並に施設収容者健康
 祈願祭助勢（横浜刑務所）
 25日 第3回拡大役員会（伊勢山皇大神宮）
 7月 17日 第4回拡大役員会（稲毛神社）
 8月 21～22日 会員家族親睦キャンプ（相模湖日相園）
 9月 6日 創立70周年記念第69回全国敬神婦人
 大会神奈川大会助勢（横浜みなとみら
 い大ホール）
 6日 秋の親睦事業「懇親会」（Yokohama
 NightMarketBBQBEERGARDEN）
 10日 天皇陛下御即位30年奉祝記念事業
 「典章長御講演」（アリスアークガーデ
 ン東京丸の内）
 19日 第5回拡大役員会（六所神社）
 21日 教養研修会「社頭で使える英語研修」
 （伊勢山皇大神宮）

慶弔報告

◇結婚

- 白旗神社 権欄宜
 新久田泰史
 平成三十年四月十日 結婚
 寒川神社 権欄宜
 犬上 互佑
 平成三十年五月十二日 結婚
 八幡大神 権欄宜
 小泉 匡史
 平成三十年六月十七日 結婚

◇誕生

- 鶴岡八幡宮 権欄宜 三嶋 啓史
 第二子長女 千彩希さん
 平成三十年五月十日



- 白旗神社 権欄宜 新久田泰史
 第一子長男 泰成君
 平成三十年六月十四日



- 鈴鹿明神社 権欄宜 久保 嘉秀
 第一子長女 志歩さん
 平成三十年七月二十日



- 白山神社 権欄宜 菊地 真
 第二子次女 佳子さん
 平成三十年九月二十日



入会・退会会員

◇入会

- 白旗神社 権欄宜 佐藤 春佳

◇退会

- 寒川神社 権欄宜 江沢 恵
 溝口神社 権欄宜 榊原由貴 磨
 富岡八幡宮 出仕 石川 太喜

寄稿
「神道と私」

「本牧のお馬流し」

—時を超えてつなぐ思い—

広報部副部長
本牧神社権禰宜 浦田善史

私が本牧神社権禰宜を拝命した平成二十七年は、当地の御神事である「お馬流し」が永禄九年から数え、四百五十回目を迎える節目の年でございました。

私自身横浜で生まれ育った身でありながら横浜の歴史、こと本牧という土地について殆ど知識がなく、奉職して初めて当地が歩んできた歴史、そして「お馬流し」という神事が、本牧の町の方々にとって精神的支柱となる極めて重要なものであることを知り、深い感銘を受けました。

祭りを中心に町が一つとなる。これは地域にとって理想的な形態と言えるでしょう。「神社の祭り」であると同時に「私達の祭りである」という意識は、地域の結びつきをより強固なものにします。本牧においては、このような理想的形態を長きにわたり維持してきたように思われますが、その背景として、この町の全ての方々が「自分は祭礼の奉仕者である」という意識に根差しているからではないかと私は考えています。

本牧神社の氏子は海側を「浜方」「内陸を「陸方」と呼び、各町で祭礼における専門委員会である「祭礼委員会」を組織しています。浜方・陸方両氏はそれぞれの役割に対して、伝統を壊さないよう慎重を期し、また拘りを持って神事に臨みます。皆、祭りを通して教師となり生徒となる。祭礼準備が始まってから例祭期間が終わるまでの間、本牧

一帯は伝統継承の大きな学舎となるのです。

当地本牧はその歴史の中で苦難の道を歩んで参りました。昭和二十年、先の横浜大空襲により本牧は大きな被害を受け、さらに翌二十一年からは進駐軍の接収により社地を奪われ、以後四十七年もの間、仮境内地での鎮座を余儀なくされ、現在の鎮座地である本牧和田に換地されたのは二十五年前の平成五年になってからのことでした。

他の地域が復興を遂げる中で、接収地となった本牧においては、平成の御代に入るまでずっと、戦後を引きずったままでした。空襲で町を焼かれ、今日を生きるのも大変だった時代の中でも、さらに接収で町を奪われ住む場所もない状況に置かれても、本牧の方々は自身を見失うことはありませんでした。その精神を維持してきた根幹には「お馬流し」があり、それこそが氏子にとって誇りであり、人生の一部であるという強い思いにほかなりません。

氏子にとつての「お馬流し」とは、神社の例祭であると同時に、町の災厄を託す、言わば我々の身に直接に関わってくるといった極めて重要な神事であり、もはや生活様式そのものであると言っても過言ではありません。

本牧神社が現在の社地に御遷座されてから、今年の十月で二十五年の節目を迎えます。これから百年先も、時代は変われども、その精神だけは何としても絶やさない。例祭をご奉仕させて戴く度にその思いが強くなっていきます。

先人が培ってきた伝統をしっかり受け継ぎ、温故知新の精神を以て、より素晴らしいものにしながら未来へ繋げて行く。これが今の私の使命であると思っております。





天神島の浜木綿

植物と神道

浜木綿 ハマユウ

み熊野の 浦の浜木綿百重なす 心は思えど 直に逢わぬかも

柿本人麻呂（万葉集巻四—四九六）

熊野の海岸に咲く浜木綿が幾重にも重なって咲いているように
何十回とあなたのことを思い出しているが、なかなか逢えないものだ。

浜木綿が登場したのもっとも古い文献とされている『万葉集』に収められたこの歌には、愛しい人に会えない嘆きが歌われています。浜木綿の名は、白く垂れ下がった花弁が木綿に似ていることに由来します。

「木綿」は、楮の樹皮の繊維を蒸して水にさらし、糸状に裂いたもので、手向けの幣帛や、祭具の紙垂としても使われていました。「み熊野」は常世の波が打ち寄せる聖地であり、ここに浜木綿が幣帛のごとく真白に咲いた状態に、神聖さを感じとることができます。また、木綿自体に、神々しさと美しさを見出す歌もあります（「泊瀬女の造る木綿花み吉野の滝の水沫に咲きにけらずや」（万葉集巻六—九一二））。

「木綿」という字は、現代では「もめん」とも読みますが、もめんは戦国時代から江戸時代にかけて普及したものであり、浜木綿の名が使われた奈良時代以前には、一般的なものではなかったようです。

浜木綿は、水はけが良く日あたりの良い場所を好み、主に温暖な海浜で見られます。横須賀市内の天神島に自生する浜木綿は、自然分布の北限地として、神奈川県天然記念物として保護されています。浜木綿は黒潮のつて南方から分布を拡げた植物であり、夏の白砂青松の海岸にふさわしい清楚な花と言えるでしょう。

（広報部 早川道子）

【参考文献】

國學院大學「万葉の花の会」『植物で見る万葉の世界』『万葉花の会』事務局発行、平成十六年九月八日、中西弘樹『海から来た植物―黒潮が運んだ花たち―』（株）シナノ発行、平成二十年六月二十五日

社頭授与品専門奉製所

（主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁）

帝陸神宝(株)

〒310-0902 水戸市渡里町 835-1

☎（水戸）029（227）0511（代）

FAX（水戸）029（227）0512

祈りのかたちに
京の伝統と真心を込めて

御社寺ならでばの御守をオーダーメイドで奉製いたします
色・柄・形などお気軽に御相談ください

京都奉製株式会社

京都本社／東京営業所／仙台営業所／福岡営業所
☎ 0120-164124（イロイニシキ）
ホームページ http://www.omamori.co.jp

～事業品のご案内～

境内の彩りに

朱傘 32,000 円／朱傘台座 28,000 円

【朱傘】
直径 200cm、高さ 254cm、台座使用時 255cm
【台座】
上正方 29cm×29cm、下正方 47cm×47cm、
高さ 55cm、穴内径 4.8cm、

祭典や結婚式の参進、七五三に…

※縁台は付属しておりません

烏帽子用汗取りパッド

5 枚入り 2,000 円

東レの抗菌防臭素材セベリスを使用したパッド。
汗や皮脂のべとつき不快感を軽減します。
化粧移りが気になる女性の額当や冠にもオススメです。



※額当の幅に合わせカットしております

お食い初めセット(化粧箱入り)

【化粧箱のサイズ】
膳なし 21.2cm×19.6cm×7cm
膳あり 24.3cm×20.7cm×11.5cm

膳なし 1,300 円／膳あり 1,800 円



鎮物各種

※紙製、木製は
10 体以上から承ります。



紙製 200 円／木製 600 円／陶器 角型・丸型各 1,500 円

白衣、襦袢

冬物・夏物共にご用意しております。

白衣 8,000 円 (X4のみ 9,000 円)

白衣サイズ表

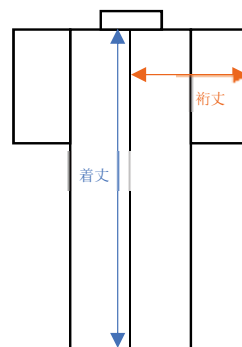
(単位 cm)

品番	品名 (白衣)		小寸	中寸	大寸	特大寸	女中寸	女大寸
X 2	夏物 (テトロン、麻)	着丈	130	135	140	145	120	125
X 3	冬物 (ウール)	衿丈	66.5	68	69	70	65	67
X 4	合物 (ブロード)							
X 5	合物 (ポリエステル)							

襦袢 4,000 円

襦袢サイズ表 (単位 cm)

品番	品名 (襦袢)		M 寸	L 寸	女寸
S 4	合物 (さらし)	着丈	76	82	67
S 5	夏物 (クレープ)	衿丈	65	68	60
S 6	冬物 (天竺素材)				
S 7	冬物 (ネル)				

**福助足袋**

縫製が良く丈夫な日本製。

注文は五足から承ります。

品番	品名	サイズ (単位 cm)	定価
1303	足袋 (ネル)	22.0~28.0 (0.5 刻み) 29.0~30.0 (1.0 刻み)	1,000 円
3303	足袋 (サラシ)	21.5~28.5 (0.5 刻み) 29.0~30.0 (1.0 刻み)	1,000 円

その他事業品

品名	定価
国旗セット (縦 71cm、横 89cm、ポール 150cm)	2,000 円
浅沓 小 (25cm 以下) 中 (25~26cm)	17,000 円
大 (26~27cm) 特大 (28~29cm)	

お申し込み、お問い合わせは F A X 又はメールにて承ります。
F A X の場合は別紙申込用紙をご使用下さい。
送料、振込手数料は別途ご負担頂きますようお願いいたします。

〒253-0195 高座郡寒川町宮山 3916 (寒川神社内) 水谷祐也

電話: 0467-75-0004 FAX: 0467-75-0071

e-mail: kanagawa_sinseikai_jigyoubu@yahoo.co.jp



注文メール作成に!

情に竿させ冠婚葬祭(三) 葬——留魂の思想——

古くより我が国の葬儀は、故人を偲ぶことに主眼を置いて薄葬を主流として歴史を積み重ねてきましたが、仏教や儒学といった外来思想の影響を受けつつ制度や思想のうえで幾多の変遷を重ね、江戸期には国家仏教とでもい

うべき檀家制度の時代を経て、明治期に至って徐々に神葬祭の形が定着していききました。特にこの江戸期にあつて、多くの神道思想が派生したことで、人の魂に対する眼差しが深められたことは、今日でも留意すべきものがあります。

山崎闇斎を首唱者とする垂加神道の流れを汲む松岡雄淵は、「人必ズ死シテ仏ト成ノ理ナシ。神ト成テ永ク此国ニ留リテ、天地ノ有ン限りハ存在シテ其靈魂、天子ノ御垣ヲ守リ子孫繁栄ノ守護神ト成コト神道生死ノ極意」(『神道葬祭記』)であると述べ、人は死後極楽や地獄といった遠い隔絶された世界へ行くのではなく、肉体が減んだのち、魂は顕世と併存する幽世において、永遠に存在することを指摘しました。これは、単に思想家の独断的な発想によるものではなく、既に「百足らず八十の限路に手向せば過去し人にけだし

相むかも」(『万葉集』)とも詠われているように、日本人の深層に根付いた思惟であつたといえます。

国学者本居宣長の出現により、神道思想は新たな局面をむかえ、儒・仏をはじめとした外教の影響を排して、日本固有の道を探る学問が盛んとなりました。宣長は、合理主義的な立場から緻密な文献考証によって、神道の世界観を呈示しましたが、人の魂の行方については「人死ぬれば、善人も悪人も黄泉国へゆく外なし。」(『鈴屋答問録』)と述べ、「記紀」に示されたような「穢き国」へゆくこと述べたのでした。これに対し、宣長没後の門人平田篤胤は、様々な学説や民間伝承を体系立てて、独自の世界観を構築しました。それは机上での書物を中心とした学術的な追求に留まるものではなく、「顕幽一貫」に基づいた信念であつたといえます。苦楽を共にした妻織瀬を若くして亡くした篤胤にとつて、その魂の安らかなる実在を確信するためには、たとえ師の考えであつても「非説」と断言することをおそれず、「冥府と云ふは、此顕国をおきて別に一処あるにもあらず」(『霊能真柱』)と明言するに至ります。

かつて外宮祠官中西直方が詠じた「日の本に生まれ出にし益人は神より出て神に入るなり」といった抽象的とも捉われる靈魂観は、雄淵や篤胤といった思想家、さらに幕末維新期の国学者や神道人の弛まぬ研鑽によって、具体的に現実的な神葬祭研究の成果が生み出され、死後の魂は我々の身近な世界に鎮まるとの認識を確固なものとなりました。

そして魂がやせ細ることなく太く鎮まるために、子孫や身縁深き人々の手による「祭」が必須であるとする、葬祭不可分の思考を定着させていくことになります。

(広報部 中村 聡)



顕幽両界の構造を示した
平田篤胤の著作『霊能真柱』

【参考文献】

- ・ 禮典研究会『神葬祭総合大事典』(雄山閣出版・平成十二年)
- ・ 國學院大學日本文化研究所『神葬祭資料集成』(ベリかん社・平成七年)
- ・ 「国学と楠公の魂の往くへ」(『湊川神社史 中巻(景仰編)』、湊川神社社務所・昭和五十三年)
- ・ 「人を神に祀ることの意義」(『湊川神社史 下巻(鎮座編)』、湊川神社社務所・昭和六十二年)

各種御守・授与品全般・デザイン制作承ります。

にしき
西紀
有限会社

TEL: 072-810-8133

FAX: 0120-71-8135

FAX 24 時間受付

〒576-0034 大阪府交野市天野が原町 4-1-7

メール: mytom@chive.ocn.ne.jp

ゴルフ同好会



ゴルフ同好会は青年会員とOBの皆様で構成しています。六月四日、梅雨時期にも関わらずとても穏やかな天気の中、伊勢原カントリークラブにてOB三名、会員六名の参加にて大会を開催しました。スコアは参加者それぞれ八十から一三〇まで幅広く、プレーヤーによって技術の差がかなりありますが、それぞれに当会規程のハンディキャップを設けているので、誰もが優勝するチャンスがあります。

今後も継続して企画し、会員同士の親睦を深めるべく活動して参ります。ゴルフをこれから始めてみたいという初心者の方も参加しやすい会です。

普段は集まって練習はしておりませんが、体験してみたい方いらっしゃいます。

フットサル同好会



フットサル同好会は、月に一〜二度、夜七時から二時間程度、横浜周辺の体

ましたら、どうぞ事務局までご連絡下さい。
(利根伸介)

【事務局】 日枝神社 山本喜道
〇四四―四二一―三二七

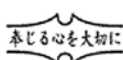


育館およびフットサルコートにて活動しております。

基礎的な運動をはじめ、ボールを使つてのテクニックや精度の向上、また試合形式では、攻守の場面ごとに一人一人が最良の判断ができるように取り組みなど、充実した練習を行っております。その結果、初心者メンバーが多いながらも、大会で好成績を取られるようになり、フットサルの楽しさだけでなく、勝つことの喜びも分かち合えるようになってきました。普段は場所を貸し切って活動しておりますので、メンバーの家族や小さな子供たち、友人など、いろいろな方々が参加しております。いつも笑顔がたえず、良い雰囲気の中、一緒に楽しく体を動かしております。

少しでも興味を持たれた方、運動不足を解消したい方、お気軽にご参加ください。見学だけでも大歓迎です。また、どんなご質問でもお問い合わせてください。みなさんで一緒に楽しい時間を過ごしましょう！
(上野 力)

【事務局】 八幡大神 小泉匡史
〇四四―五一―六〇一〇



授与品 総合奉産
全国社寺 調度品



京都・吉祥院
東和奉産株式会社

代表取締役 松尾正貴

本社・工場 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町七

電話代表 (075) 691-3000

FAX (075) 691-3300

E-mail info@towahosan.jp



野球同好会



我々神奈川県神職野球同好会は月に一〜二回横浜近辺の野球場を借りて、秋の都七県神職野球大会に向けて練習に励んでいます。

夜の七時〜九時までの限られた時間の中で会員が一丸となり、時に厳しく時に和気藹藹と楽しみながら毎回練習を行っています。

大会に向けての練習なので野球経験者ばかりだと思われがちですが、心配はご無用です。当会員は野球未経験者の方も多く、野球を全くやった事が無い方にも野球を楽しめるような練習

で、分からない事や疑問に思う事でも先輩方が親身になって教えてくれるので、初心者の方でも安心して練習に参加できると思います。

野球というスポーツに少しでも興味のある方、気軽に野球を楽しみたい方も大歓迎でございます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【事務局】 神明社 石原誠人

（目下部成信）
○四五―三四一―六三六五



編集後記

今夏は全国で記録的な猛暑をはじめ、西日本豪雨・北海道胆振東部地震など各地で自然災害が発生し、甚大な被害を及ぼしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。今後は一日も早く復興されます事をご祈念申し上げます、当会としても地域復興の一助となるよう、支援活動を続けて参りたいと思います。

会報神奈川六十六号発行にあたり、先ずはご寄稿頂きました伊勢原大神宮宮司 宮本佳昭様をはじめ、ご協力頂いた青年会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また日頃より当会活動にご理解を賜り、ご協賛頂きました企業の皆様に心より感謝申し上げます。

今号では、天皇陛下御即位三十周年奉祝事業の一環である「皇居勤労奉仕」「掌典長御講演」をはじめ、当会が取り組んだ様々な活動についての報告記事を掲載しております。これからも会員相互の協力を図り、充実した会報の作成に取り組んで参ります。

季節は秋となり、各神社で七五三詣の賑わいを迎える頃ではない

でしょうか。次第に寒さが厳しくなりますので、健康に御留意してお過ごし下さいませ。これからも皆様方のご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

（広報部 佐藤史久）

社殿造営・神棚神具製造

ひょうたや

有限会社

代表取締役 田中弘紀

伊勢市宇治浦田二丁目一〇ノ三八
電話 〇五九六 二三 三九〇五
FAX 〇五九六 二三 三九〇八